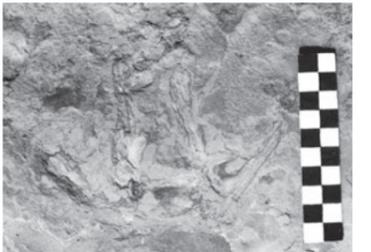


# 発見! 甲賀の自然

～身近な甲賀の自然から、興味深い話題を紹介します～

鳥の骨が化石として残ることは少ないのです。一方、足跡化石は鳥が歩いた跡が地層に残ったものですから、その場所に鳥が生活していた証拠になります。

水口町の野洲川で見つかった足跡は、形の特徴から、ツル科であることが分かりました。この足跡化石を樹脂で剥ぎ取ったものを自然館で展示しており、過去の甲賀市にツルの仲間がいたことを教えてくれます。



水口町宇田で見つかったツルの足跡化石。目盛りの大きさは1cm

問い合わせ

みなくち子どもの森自然館

☎63-6712 ☎63-0466

冬は活動する生き物が少ない季節ですが、野鳥の活動は活発です。木々の葉が落葉して鳥の姿を隠すものが少ないこともあって、よく見かけます。現在、みなくち子どもの森自然館では市内の鳥のことがよくわかる特別展「野鳥のひみつ」を開催中です(3月13日まで)。

ところで市内では、約230万年前にも鳥がいたことを示す手がかりがあります。

230万年前といえば、琵琶湖のもとになる湖やその周辺の川などが水口から蒲生にかけて広がっていた時期です。このときにたまった地層は、現在市内でも見ることができます。水口町北内貴から宇田の野洲川河床もそんな場所の一つです。ここでは、ゾウ・シカ・ワニに加えて、鳥の足跡化石も見つかっています。

鳥は空を飛ぶために身体が軽くなるようにできています。骨も中が空洞になっている部分が多いため、

## 市史の小徑 46

### 戦国ブーム到来! 『甲賀の城』に 全国から注目

晩秋から春にかけては、お城巡りに一番よい季節といわれます。木の葉や雑草が枯れ落ちて見通しがよく、ハチやヤマビルの害、蛇や熊といった動物たちとの遭遇を心配しなくてもよいからです。

お正月に市内の城跡を歩きました。落ち葉を踏みしめながら城道を進むと立派な土塁や堀跡が見えてきます。冬の弱い日射しは強い影が出ないので写真撮影には好都合です。城の細かな構造を学ぶのもよし、見晴らしのよい高所に立つて城主気分になるのもまた楽しいものです。建物が無いだけにかえて想像が膨らみます。

昨年12月に刊行された『甲賀市史』第7巻「甲賀の城」は、そんな城跡探訪のために基礎知識を提供し、またよきガイドブックになります。発売以来特に全国のお城ファンの方の高い評価をいただき、県外から購入いただく方が多いのも特徴です。今年のNHK大河ドラマは近江

湖北が舞台。どうやら戦国ブームが来るようです。戦国甲賀の「地域力」の象徴と高く評価される甲賀の城。身近な城跡を選んで、ご家族で一度訪ねられてはいかがでしょうか。



城跡を歩く

◎第7巻『甲賀の城』  
B5判 本文約510頁  
上製本・函入り・写真図版多数  
販売価格：3,500円

【販売場所】(水口町)ブックショップ ヤマカワ・ブックストア・山田書店・UTAYAさんぽーど・水口歴史民俗資料館(土山町)ウエノ・道の駅あいの土山・新名神土山サービスエリア案内所・土山歴史民俗資料館(甲賀町)かふか生涯学習館(甲南町)ウイング甲南店・市史編さん室(信楽町)大宝堂谷川書店・信楽伝統産業会館・信楽中央公民館

\*事前予約申込の方は指定の施設でお引き換えください。

問い合わせ  
歴史文化財課 市史編さん室  
☎86-8075  
☎86-8216

\*詳しくは「甲賀市ホームページ」→暮らしのガイド→教育文化→市史編さんをご覧ください。

## 甲賀市文化協会

### 連合会文芸欄

短歌(地中海)

～思い出里の山～

頂上から左を見れば陶の町登り窯から作陶小屋まで  
右側は村の大半望み見て学友の名前大声で呼ぶ

志がらき俳壇

玉垣のみくじを揺らす冬の風  
木枯のゆきて湖面に眠る比良

里の灯のひとつはわが家クリスマス  
マラソンのスタートライン初日かな

信楽冠句連盟

振り返る 原色ばかりの 場が浮かぶ

振り返る 一億泣いた ご聖断

おかげ様 気嫌良く履く 朝の靴

おかげ様 知足の日々の 穏やかに

切り抜ける 夫婦春秋 五十年

切り抜ける 伝統の味 守り継ぐ

菊競う 見事に咲かせた 腕自慢

田の昼餉 一家総出の 秋日和

田の昼餉 揺れる稲穂に 感謝して

酔い心地 酒の味より 友の味

酔い心地 秋の夜長に 盃重ね

無利頼む 受けた情けに 流す汗

無利頼む 弱気を叱る 影法師

柿たわわ まほろば詠みし 子規の筆

柿たわわ 無住の故郷へ 思い馳せ

火が恋し 事無く暮れる 鐘の音

酔い心地 漂泊詩人 風に乗る

酔い心地 夜風と語る 千鳥足



高井 仁波知

杉本 志か代

片木 幸子

小谷 栄子

城 宏衛

奥山 荷花郷

高井 翡翠

高井 友季

大西 千草

田中 案山子

小西 一三

洞 子燕

高橋 陶玉

山岡 小苗

大西 重男

小西 独歩

奥田 みどり

沢 しのぶ

辻本 時鳥

島田 好湖

宇田 一晴

奥田 諦勝

藤田 小狸

信楽町文化協会

## 家庭教育子育て・親育ち講座

～教育の出発点は家庭から～



第18回 みんなが持っているから...  
携帯電話やゲーム機をねだる子どもたちが親に向かって一番多く使う言葉は「みんなが持っているから」かもしれません。進級や進学の時分に使用を始める傾向が多いようですが、娯楽やコミュニケーションの道具として普及しているインターネットは、携帯電話やパソコンだけでなくゲーム機から接続できるものもあり、子どもが有害なサイトにアクセスしてしまう可能性があります。

ペアレンタルコントロール※1などフィルタリングサービス(接続制限)※2を使って、利用内容や利用時間に制限をかけるなど、まず保護者が十分に知識を持って、機器を持たせる前にルールを決めておくことをお勧めします。

インターネットサービスには多くの情報に触れられる便利さや楽しさ以外にも、ネットいじめや不正

請求、出会い系サイトなどトラブルや危険に関わってしまう可能性があることを子どもの成長にあわせてしっかりと伝えることが必要だからです。

みんなが持っているから何となく持たせてしまうのではなく、また使いた後に子どもがどういう使い方をしているか、親子でコミュニケーションをとっておくことが大切です。

※1 ゲーム機などでインターネット機能がついているものに行われる接続制限サービス。

※2 携帯電話では18歳未満の青少年の端末利用には、2009年から契約時に特別な申し出がない限り接続制限利用が定められています。

参照 冊子「ちょっと待ってーはじめのケータイ(財)インターネット協会

問い合わせ  
子ども未来課 家庭教育振興係  
☎86-8171  
☎86-8380